

# キングス・カレッジ・ロンドン 留学報告書

第6号 2018年1・2月

2017-2018年度グローバル補助金奨学生 中谷菜美



## ■留学先

キングス・カレッジ・ロンドン

International Child Studies 修士課程

## ■スポンサークラブ

東京六本木ロータリークラブ

## ■ホストクラブ

エッジウェア・スタンモア

(Edgware and Stanmore)ロータリークラブ

## 目次

01. 履修内容・学校生活

02. ロータリークラブの方々との日々

03. 重点分野との関わり



リッチモンドというロンドン郊外の丘からの景色。ロンドンにお気に入りの場所を見つけられた時は嬉しくなります。



雪のリージェントパーク

春の兆しを感じる今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。ロンドンは、2月の最終週に大寒波に見舞われ、雪を伴うこの冬一番の寒さとなりました。交通機関が止まるなど支障は出ていましたが、雪のロンドンも趣がありました。

また、現在イギリス国内の大学教員が年金の削減に反対して大規模なストライキを実施しており、私は大きく影響を受けなかったものの、数週間授業が行われないなど学生に大きな影響がでています。そんなロンドンより、1・2月の活動報告をお届けします。

## 01. 履修内容・学校生活

### 乳幼児期の子どもの発達の重要性

子どもの健康と発達についての授業では、乳幼児期の子どもの発達の重要性に関するエッセイを書きました。国際社会の取り組みにより、乳幼児死亡率(生まれてから5歳までに死亡する割合)は世界的に大きく向上していますが、次の課題として、多くの子どもたちが未だ自身の持つ可能性を十分に発揮できていないという点が問題視されており、国際社会が取り組みに力を入れています。

近年の脳科学では、脳が急激に発達し、その後の発達や能力の基礎づくりがなされる乳幼児期に、保護者から適切な関わりやケアを受け、必要な栄養が与えられ、暴力やストレスから守られる環境が、それぞれの能力を最大限発揮するには不可欠と考えられています。しかし、特に発展途上国では、貧困や栄養不足、基本的な保健サービスや早期教育へのアクセスの不足により、乳幼児期の子どもの発達が最も危機的状況にあります。そのためエッセイでは、特にサハラ以南アフリカにおける政策について、成功事例を元に分析しました。

乳幼児期の子どもの発達については、私のキャリア目標であるユニセフでも新たなキャンペーンが立ち上げられるなど、非常に注目されている分野であるため、エッセイを通してじっくりと知識を深められたことは、今後の職務でも役立つと感じます。

## ジュネーブにて、子どもの権利委員会にオブザーバー参加

子どもの権利条約を批准する国は、数年に一度自国の子どもの権利条約の実施状況を子どもの権利委員会に報告し、それを元に子どもの権利委員会と各国政府代表団が協議を行う仕組みになっています。その会議が1月にイス・ジュネーブで開催されたため、オブザーバーとして傍聴してきました。

私の参加した日は、ゲアテマラとスリランカについての協議が行われていましたが、授業で学んだ子どもの権利が、実際にどう各国の子どもの直面する課題改善のために使われるかを実感として学ぶことができました。この委員会が現地に及ぼす影響力や限界は何かといったことも考える機会になり、大変勉強になりました。現在日本人の弁護士の方が子どもの権利委員会の委員を日本人として初めて務められており、その方からも貴重なお話を聞くことができ、大変有意義な機会となりました。



子どもの権利委員会の会場の様子。

## 02. ロータリークラブの方々との日々

### ホストクラブにて卓話・六本木ロータリークラブの旗の贈呈



ホストクラブの会長のダニエルさん(右)に東京六本木ロータリークラブの旗を贈呈しました。



卓話の様子。とても温かい雰囲気で聞いてくださいました。

1月31日(水)に、ホストクラブであるスタンモア・エッジウェアクラブにて卓話の機会をいただきました。同クラブは、毎週水曜日のお昼にゴルフクラブにて会合を行なっており、この日は15名ほどの参加がありました。日本の紹介、大学時代及び日本赤十字社での活動、大学院での勉強、今後のキャリア目標等をお話しましたが、みなさん温かい視線で聞いてくださり、多くの質問も寄せていただきました。初めての英語での卓話に緊張していましたが、カウンセラーのフランさんより、今までの奨学生の中でも一番良かったうちの一人だと言ってもらうことができ、自身の英語で話す力が少しづつ上達していることを実感できて自信になりました。スポンサークラブである東京六本木ロータリークラブからお預かりしていた旗も贈呈することができました。

## ロータリー奨学生夕食会・ユースコンサート

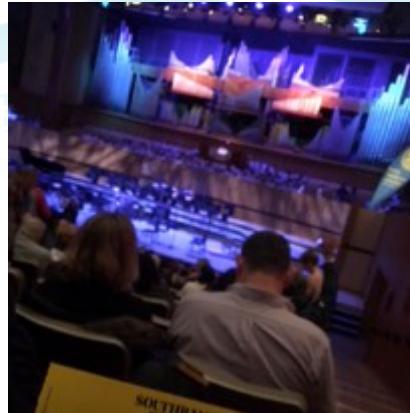
2月12日(月)には、ラドレット(Radlett)ロータリークラブが毎年奨学生のために開催してくださっている夕食会に参加しました。カウンセラーのフランさんご夫妻も参加してください、賑やかな会になりました。

また、2月22日(木)には、ロンドンのロータリークラブが毎年主催しているユース・ミュージック・コンサートに招待していただきました。大きな会場がロータリアンで満席になっており、本当にたくさんの方がロータリーに関わっていらっしゃることを実感しました。コンサートは、ロンドンで音楽を学んだり実践したりしている若い世代が、次々とオーケストラ、プラスバンド、ゴスペル、民謡、バンドなど様々なジャンルの音楽を奏でており、若い才能に感動する一夜となりました。



カウンセラーのフランさんご夫妻と夕食会場にて。

また、2月はカウンセラーのフランさんに夕食に招いていただいたり、ミュージカルを見に連れて行っていただいたりと、大変お世話になりました。勉強ばかりでなかなか外に出ていなかったので、久しぶりのミュージカルを大いに楽しむことができました。



コンサート会場はパイプオルガンが美しいサウスバンクセンターで行われました。両サイドの壁にはロータリーのシンボルが映し出されていました。

## 03. 重点分野との関わり

### 北朝鮮からの難民の方のお話

他大学で開催されたセミナーにて、北朝鮮から逃れ、難民として認定されているパクさんという女性の方のお話を聞く機会がありました。現在イギリスには約600人の北朝鮮からの難民の方が居住しているそうです。今は息子さんと二人でロンドンに暮らすパクさんですが、飢餓でご家族をなくした経験、生きるために決死の二度の国境超え、逃れた中国での奴隸のような家事労働、性的搾取、強制帰国にて息子と引き離された経験、強制帰国後の強制労働所での劣悪な環境など、過酷な体験を話してくださいました。北朝鮮から難民として逃れた方のお話を聞くのは初めてで、想像以上の状況に衝撃を受けました。パクさんは現在ロンドンで、新しく難民として逃れた方の支援をされていますが、直近の情報からも今も北朝鮮内の状況は大きく変わっていないとのことでした。北朝鮮は政治上で多くの議論がある一方で、人々の生活の実情については注目されることが少ないと感じました。パクさんが、北朝鮮の状況は、帰国させられれば政府から強制収容所で労働を強いられるような状況で、明らかに国際法上難民として認定される状況であるにも関わらず、中国に入った北朝鮮からの難民は全員強制送還されると話されており、その状況に非常に違和感を感じました。また、そのお話を聞き、自分自身も脱北者という言葉が自分の意識の中に定着しており、北朝鮮の方々を難民として認識していなかったことに気づき、はっとさせられました。

留学期間も残すところ6ヶ月となり折り返し地点を迎えました。それぞれの授業で学んだ知識が体系化されてきていることを少しずつ感じており、忙しい中でもより勉強が楽しくなってきています。引き続き、日々を充実させていきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。